

2017 年度事業報告書

特定非営利活動法人こむの事業所

1 事業の成果

2017 年度は、前年度に引き続き支援給付費を返還するとともに、食事サービス部門の支援職員の退職等の影響により事業収支が急速に悪化したことから、収支改善計画を策定しその途上にある。

収支悪化の一因でもある、最低賃金の 2 か年にわたる大幅改定は、一方では、こむの事業所で働く障害者スタッフの所得の改善に着実に繋がっており、創業以来毎年改訂された最低賃金を着実にフォローできたこと自体が事業所の使命を達成してきた成果と位置付けている。

幸い食事サービス部門、こむの市場部門の売り上げは確実に伸びてきており、今後それらの部門を中心に障害者を始め誰もが働きやすく、働き甲斐のある事業に向けて取り組みを進めていくことが求められている。

こむの事業所のもう一方の使命である住居の支援を通じたソーシャルインクルージョンの推進については、2017 年度の利用実績が 525 日に上り、住居の利用を通して多くの人々が地域での暮らしを実現するとともに、暮らしの危機を回避することができ、大きな事業成果を達成した。

(1) 障害者スタッフの一般就労

① 就労者への継続的支援

2016 年度に一般就労を果たした人たちへの、電話や面談による支援を継続的に実施するとともに、一部雇用事業所への助言等を行い、就労後の安定をサポートしてきた。

② あとむとの連携

宝塚市障害者就業・生活支援センター「あとむ」と連携し、就労希望者との面談等実施してきたが外部実習など具体的動きにはつながらなかった。

(2) ビル管理事業

① 宝塚市立老人福祉センター・大型児童センター等公共施設清掃の受託

通常清掃については、前年度に引き続き、求人の事情がひっ迫しているなどの影響で、チームリーダー職員の退職補充が順調に運ばなかったために現場作業の負担が過重になっている。

また毎年の最低賃金の改訂にもかかわらず業務委託費の改善ができていないために、業務改善を重ねているにもかかわらず事業収支が悪化しつづけており、事業継続への危機も迫る中で、委託費の改善を申し入れ、次年度に向けて一定の改善が図られることとなった。

障害者スタッフの職能は確実に高まっており、長期にわたる取り組みの成果が表れつつある。

② 駐車場管理

2016年度に引き続き自己チェックシートや業務チェックシートなどを用いた業務改善に取り組んだことによりチームワークが強まりモラルが高まった。

(3) 食事サービス事業

① 給食受託

宝塚育成事業所の給食調理業務については、2017年12月に施設内調理からクックサーブ方式に転換したことにより、配膳や配達業務に障害者スタッフが従事しており、職域の拡大につながるとともに、業務も効率化している。

② レストラン「こむず」の営業

2017年度は、新たなマネジャー及び栄養士による新体制のもとで、季節メニューの導入などメニューの多様化や材料仕入れの改善など取り組んだ結果、集客力が高まり事業の基盤が整ってきた。

同時に厨房では障害者スタッフへのチーム支援体制を整え、2名の配置を行ったが、出席が困難な状態が常態化しており、その対応が課題である。

③ 配食サービス事業

2015年度から試行的に開始したデイサービススイッチオンへの配食を本格的に開始し、現在ではいまい内科クリニックと合わせると1日50食程度となり事業の柱の一つになっている。今後さらなる拡大に取り組んでいる。

(4) こむの市場事業

① 生鮮野菜・米等の販売

前年度に引き続き仕入れ先の拡大、販売の促進に取り組んだが、スーパーでの地元野菜の販売が広がるなど競争激化の影響などで仕入れ量が減少するなど、事業が縮小しているため新たな業態の展開が課題になっている。

(5) パソコン事業

① パソコン等修理事業

パソコン等家電類の修理事業については、現在 1 名の障害者スタッフとなっている。2017 年度も、売り上げが伸びず需要が一巡したと考えられることから、あらたなマーケットを開拓するためにチラシの改訂版を作成するとともに、市内の福祉施設へダイレクトメールを送る取り組みを進めている。

② システム開発

現在 1 名の障害者スタッフが従事しているシステム開発について、既開発のボラコシステムは、尼崎市、西宮市、猪名川町から受注したあと、受注がないので今後大阪府下など販路拡大に取り組む必要がある。

2017 年度は、新たに関西学院大学から実習生派遣データベースを受注開発したことから、新たなマーケットの可能性も見られた。

(6) その他

① 住居利用

2017 年度は、主に病院からの地域移行あるいは自宅親元からの自立生活に備えた訓練のための利用がなされ、それぞれ新たな住まいを確保し、自立生活を実現した。これらの中には、身内からの避難の要因を併せ持つものも複数あり、年間利用が 14 件 525 日に上るなど急速に事業が拡大したことにより実績の増となった。

② アトリエの利用

現在アトリエについては、パソコン事業及び試行的に実施しているエビス面描き作業場としての利用が主となっており、現在 4 名の障害者スタッフが従事し、労働時間の拡大につながっている。

③ 研修室、教室の利用

1 階研修室、2 階教室については、食事サービスの利用につなげるために昼食若しくは喫茶の利用を条件にグループ貸出しを行っており、利用が増加している。

④ 障害者就労・生活支援センター事務所貸付

社会福祉法人宝塚さざんか福祉会が宝塚市の委託を受けて運営する障害者就業・生活支援センター

については、障害者等の就労について、2017年度は5,544件の面談による相談を実施し、93人が就職した。

⑤ 成年後見センター事務所貸付

NPO 法人宝塚成年後見センターが行う高齢者・障害者の法人後見等について、2017年度は面談をはじめ福祉サービス利用支援など1,605件の支援サービスを行ったほか12人の法人後見を行った。

2 事業実施に関する事項

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	ビル管理事業	通年	宝塚市立老人福祉センター・大型児童センター、こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-8、9 宝塚市立健康センター 宝塚市小浜 4 丁目 4-1 宝塚市立口腔保健センター 福祉コミュニティプラザ駐車場 宝塚市売布東の町 9 番地内	20 人	障害 13 人 就労要支援 4 人	17,877
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	食事サービス事業	通年	宝塚育成事業所内厨房 宝塚市安倉西 4-1-7 こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	12 人	障害者 3 人	32,588
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	こむの市場事業	通年	こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	2 人	障害者 1 人	8,514
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	パソコン事業	通年	こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	1 人	障害者 1 人	2,960
障害者等の地域移行及び一時的に住まいの困難を抱える人への住居支援に関する事業	住居支援事業	通年	こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	1 人	施設等からの地域移行自立訓練及び家庭内暴力等からの避難	130

